

「令和元年度体験活動プログラム研修会・地域活動指導員等研修会」事業報告

- 1 事業名 令和元年度体験活動プログラム研修会・地域活動指導員等研修会
- 2 期 日 令和元年9月18日（水）
- 3 参加者 27名
- 4 日 程

時 程	内 容
9:40	受 付
10:00	開会行事
10:10	研修1〈演習・講話〉 「SDGsの視点からみる子どもの体験活動と人権教育」 筑豊教育事務所 社会教育室 社会教育主事 増山 雄一 人権・同和教育室 社会教育主事補 野田 大樹
12:00	休 憩（昼食）
13:00	研修2〈講話・演習〉 「困難を抱える子どもの生きる力を身につける循環型社会の取組」 ～SDGsにアプローチするダンボールコンポスト・ 循環型社会のワークショップ～ NPO 法人循環生活研究所 理事 たいら 由以子 氏 NPO 法人循環生活研究所 コンポストアドバイザー 平 ひかり 氏
15:30	閉会行事
15:40	

5 活動の実際

研修1

(1) 内容

研修前半ではSDGs（持続可能な開発目標）の概要についてプレゼンテーションを使用して説明を行いました。次に、SDGsが掲げる「誰一人取り残さない」という考え方をもとに3～4人のグループにて演習を行いました。演習の内容は、障がいがある子ども、さまざまな課題をもつ子どもが参加する体験活動における、工夫や配慮点を話し合うものでした。参加者はこの演習を通して、「どんな子どもも参加でき、誰一人取り残さず、参加するすべての子に役割がある活動の工夫や配慮を考えることが大切である。」というSDGsの視点を学びました。

研修後半では、「子どもたちの人権を大切にしたい体験活動」をテーマに講話を行いました。参加者は、「どんなことが人権侵害にあたるのか」「子どもたちは指導者の言動や行動を見聞きして学び取っているからこそ、指導者の人権意識が大切なのだ」ということを学びました。

(2) 活動写真



SDGsについての説明を聞く参加者



演習にて話し合いを行う参加者



演習での話し合いの内容を発表する参加者



子どもたちの人権を大切にしたい体験活動の説明の様子

(3) 参加者の声

- すべての子どもが役割をもつ事が大切だとわかりました。
- SDGsの視点をもって体験活動を仕組んでいくことは、すべての子どもが活躍し、成長するために必要なことであると思いました。
- 大人の言葉選びが子どもへ大きな影響を与えてしまうことがあることがわかりました。

研修2

(1) 内容

研修2では、NPO法人循環生活研究所理事のたいら由以子氏とコンポストアドバイザーの平ひかり氏を講師として、SDGsの目標である「持続可能」という観点をもとに講話と演習を行いました。はじめに海・山・川・まちが描かれたホワイトボードの絵をもとに、現代と昔の生活の違いについて考えました。そして、講師が参加者からの回答をホワイトボードに書き込み、現代と昔を比較することを通して、循環型社会の必要性について理解を深めていきました。さらに、ダンボールコンポストを使って家庭から出る生ゴミを堆肥化し、できた堆肥で野菜を栽培・販売するという循環型社会の実践例や、この事業に不登校の児童生徒等、困難を抱える青少年の参加を促し、学校や社会への復帰を支援している活動等の説明がありました。演習はワークショップ形式で行いました。6～7人のグループ毎に用意された人物のカードから家族構成を決め、その家族が住む家について循環型の生活を考え、その家周辺の建物、その家周辺の交通機関、その家があるまちと範囲を広げながら、最終的に循環可能なまちづくりを考えていきました。参加者は自分の職場事例や担当業務の事例を紹介したり、出された意見に付加修正を加えたりしながら、市町村や職種の枠を超えた活発な意見交流を行いました。

(2) 活動写真



循環型のまちづくりについて話すたいら理事



子どもくるくる村の取組について話す平アドバイザー



持続可能なまちづくりの演習を行う参加者



演習内容のグループ発表を行う参加者

(3) 参加者の声

- コンポストについて、いかに人に興味を持ってもらえるのか等の取組の内容がよかったです。講話の内容も分かりやすかったし、自分の町でもやれるPのではないかと感じました。
- グループワークの進め方や個人の対応の仕方等、参考になる事が多かったです。他の課との連携はあまり出来ていないので、連携を行っていけたらと思います。他の町村の、これはいい取組だということがグループワークに活かせていたので、聞いて良かったです。
- 子ども・若者が自然とふれあう喜びを通して、社会を考え、社会を変えていくことにつなげる活動になればと思います。できることからやりたいです。

6 全体をととして

今回の研修会は、国連サミットにて採択され、『誰一人取り残さない』持続可能で多様性と包摂性のある社会を目指した17の国際目標であるSDGs」を学ぶとともに、指導者としてSDGsの視点を取り入れた子どもの指導や取組について考えるものでした。今回は、地域活動指導員のほかにも、小中学校教職員や教育委員会関係者、アンビシャス広場関係者等、様々な方々の参加がありました。そのため、行政の視点や教育現場の視点などさまざまな角度からの活発な議論が行われました。参加者からは、「SDGsの視点を踏まえることは大切だと感じました。」「今回の研修内容を実践してみたい。」等の感想があり、子どもたちの体験活動を充実させる上で有意義な研修会になりました。